

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人千葉県福祉援護会 障害者支援施設ローゼンヴィラ藤原		公表日		令和7年3月31日	
	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	課題・改善すべき点や工夫している点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			定員に対して既定のスペースは確保しているが、ご利用者が多い時は活動場所を広げて対応している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			活動場所が暗くならないように、明るいマットを使用するなど児童が楽しく過ごせる環境作りに努めている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			状況に応じて、別室での対応が可能。
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			個別支援会議等を中心に実施している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			6	第三者評価については、現時点では受任していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			目標面談や通所会議、個別支援会議等の場面を用いて、職員から支援内容や業務内容等についての意見を確認する様にしている。研修についても外部・施設内共に積極的に実施している。
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			個々の項目に対して、個別の支援を包括的に整理しているが、求められている内容の整理はされている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2		全体のプログラムは年単位でサイクル化されている物もあり、変化を求める事が難しい状況にある。個別のプログラムについては、個々の状態に応じて活動を行えている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			活動内容の選択、使用する道具の選択等、自身で選択しながらオリジナルの作品や個々の心身状況に合わせた活動が行えるようにしている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	3		必要に応じて日々の相談は実施している。課題などがあれば会議の開催、参加を行う用意はあるが、会議の開催がされていない。個別支援会議については、感染症対策としてお招きしていないが必要に応じて報告は行っている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		家族等を通じて、医療機関やその他福祉関係機関と連携をとっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			学校説明会への参加、担当教諭との情報交換等を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		6		ご家族を介して情報共有は実施している。必要があれば、連携を図る事としている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			必要に応じて利用時の様子等情報提供を行っている。また、ご家族を介して情報共有を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			児童発達支援センター主催の会議に参画しており、地域課題を共有している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		2	4	放課後児童クラブや児童館との交流については、時間と場所の兼ね合いから実施できていないが、実習生やボランティアとの交流が図れるようにしている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			法人の代表者が参画している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			児童の活動時の様子、活動から見えた成果や課題等を家族と共有し、共通理解を図れる様にしている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	2	市民講座などの案内は実施しているが、保護者の評価表や日々の意見交換でも要望がないため実施はしていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			1年毎に利用更新を行っており、変更があった場合は都度お知らせしている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		2	4	個々の相談に対して対応は行っているが、保護者会等の実施はしていない。学校や児童発達支援事業所にて、既に保護者同士の連携が図られており、保護者会等の開催の要望も聞かれていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			苦情受付責任者、苦情解決責任者、第三者委員など、苦情受付に対する体制を整え、苦情があった際には適切に対応している。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1		広報誌の発刊、ブログやフェイスブックを用いた情報発信に努めている。定期的に発信しているが、掲載の頻度を増やしてより情報が伝わりやすく工夫していきたい。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1		徐々に交流を再開しているが感染症予防対策を継続しており、コロナ禍前の状況にまでは至っていない。実習生やボランティア、施設入居者等との関わりを持てるようにしている。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			必要な研修は都度実施している。訓練については優先度合いを考慮しながら企画している。
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6				
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6				
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6					